

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～



北海道南幌養護学校 町田校長

Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

学校での立場や役割が変わったとしても、子どもたちのために仕事ができることに変わりはないのではないのでしょうか。

管理職の魅力の一つは、教職員とともに、より広い視点で子どもたちの成長や学校づくりに取り組めることだと思います。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

南幌養護学校で教諭として勤務していた時に、当時の校長先生から教頭職へのお話をいただいたのが、きっかけでした。それまでは、管理職になることはまったく考えていませんでしたので、その時はお断りしました。

ただ、お話をいただいて、これまで、子どもたちや保護者の皆様、同僚の先生たちとの出会いから様々なことを学ばせていただいたり、保護者対応や分掌業務の中で管理職の先生たちから教えていただいたことを振り返ることができました。

その後も悩みましたが「学校での立場や役割が変わったとしても、子どもたちのために仕事ができることには変わりはない」と考え、管理職を志すこととしました。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

一つは、家族の理解です。当時、家族の理解を得て単身赴任ができましたので、仕事に集中できる環境で管理職としてスタートすることができました。

もう一つは、管理職になってからの支援ですが、校長会や研修会等を通して、各校長先生や先輩の先生方からたくさんのことを学ばせていただいております。新しい視点に気づかせていただいたり考え方を広げることができ、大変貴重であると感じています。

Q 管理職になって気づいたことは？

管理職になる前は、担任や分掌業務の視点で仕事をしていましたが、管理職になってからは、職員一人一人の総力で子どもたちの教育、毎日の学校生活が成り立っていることを実感しています。先生たちと一体感を持って考え、子どもの成長と一緒に喜び合える管理職でありたいと思っています。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

全校の子どもたちと関われるところが、やりがいであり魅力です。

責任は大きいですが、子どもたち一人一人の学校生活や教育について、先生たちと一緒に携わっていけるところが魅力だと感じています。

Q 後輩教職員へのメッセージは？

管理職になりますと、直接、子どもたちに関わったり、一緒に学習したりする時間は少なくなりますが、子どもたちの成長に携わっていくことに変わりはありません。

また、保護者や地域の方々と手を携えて、子どもたちの成長に向けての教育や学校づくりに取り組んでいくことを実感することができます。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

お子さんの体調不良など、急に仕事を休まなければならないことがあると思いますが、誰でも、ご自身の体調やその他の事情などで急に休まなければならないことはあります。したがって、日頃から職員全体で支え合いながら仕事を進めていける関係づくりが大切と考えております。

次ページからインタビューの全文を掲載しております！
是非御覧ください！

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

南幌養護学校で教諭として勤務していた時に、当時の校長先生から教頭職へのお話をいただいたのが、きっかけでした。それまでは、管理職になることはまったく考えていませんでしたので、その時はお断りをしました。

ただ、お話をいただいて、これまで、子どもたちや保護者の皆様、同僚の先生たちとの出会いから様々なことを学ばせていただいたり、保護者対応や分掌業務の中で管理職の先生たちから教えていただいたことを振り返ることができました。

例えば、担任をしていた時には、保護者との関わり方で悩むこともありましたが、当時の管理職の先生から「保護者に向き合おうとするのではなく、共に同じ方向を向いて立とうとすることも大事だよ」という言葉をいただき、とても心が軽くなり、保護者の心情に寄り添うことの大切さをあらためて知ることがありました。

その後も悩みましたが「学校での立場や役割が変わったとしても、子どもたちのために仕事ができることには変わりはない」と考え、管理職を志すこととしました。

また、これまで管理職の先生から助言をいただいたり、支えられたりした経験から、「もし管理職になったら、先生たちを支える役割も果たしていきたい」と考えるようになりました。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか？

一つは、家族の理解です。当時、家族の理解を得て単身赴任ができましたので、仕事に集中できる環境で管理職としてスタートすることができました。

これから管理職を目指す方や、今、管理職をしている方の中には、子育てや介護など、様々な家庭事情をお持ちの方もいらっしゃると思います。現在は、管理職となってもある程度勤務地を希望できるので、働き方が広がったのではないかと思います。

また一方で、自身の経験から、道内の広い地域で勤務できたことは、各地域の特色に応じた学校経営を経験でき、とても貴重でした。

もう一つは、管理職になってからの支援ですが、校長会や研修会等を通して、各校長先生や先輩の先生方からたくさんのお話を学ばせていただいております。管理職として決断しなくてはならないことが様々ありますが、他校の実践や研修の機会から学ぶことは、新しい視点に気づかせていただいたり考え方を広げることができ、大変貴重であると感じています。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか？

管理職になる前は、担任や分掌業務の視点で仕事をしていましたが、管理職になってからは、職員一人一人の総力で子どもたちの教育、毎日の学校生活が成り立っていることを実感しています。

そのためにも、日々の連絡や情報を職員間で共有すること、取組の目的や方向性の共通理解を大切にしています。先生たちと一体感を持って考え、子どもの成長と一緒に喜び合える管理職でありたいと思っています。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

全校の子どもたちと関わるところが、やりがいであり魅力です。

責任は大きいですが、子どもたち一人一人の学校生活や教育について、先生たちと一緒に携わっていけるところが魅力だと感じています。

また、授業で若い先生たちの成長を感じられた時や、学校行事など、職員の協力による取組が子どもたちの生き生きとした姿に繋がったり、保護者の方から喜びの声をいただいた時は成長した子どもたちの姿に、感動と喜びを感じます。

保護者や地域の方から学校へご要望をいただくこともあります。学校への期待や、地域での役割に気づかせていただく機会と受け止めています。また、校内体制を組んで検討し改善が図られた時には、学校の取組としての成果を感じることができ、保護者や地域とともに進める学校づくりの大切さや充実について、全校で共有することにも繋がっています。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

管理職になりますと、直接、子どもたちに関わったり、一緒に学習したりする時間は少なくなります。子どもたちの成長に携わっていくことには変わりはありません。また、保護者や地域の方々と一緒に手を携えて、子どもたちの成長に向けての教育や学校づくりに取り組んでいくことを実感することができます。

先生方の中には「自分は管理職には向いていない」「自分は管理職になる自信がない」と話をする方がいますが、いろんな管理職の姿があると思います。管理職を志すか否か迷っている方も、ご自身のタイミングで前向きに考えていただきたいと思います。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

お子さんの体調不良など、急に仕事を休まなければならないことがあると思いますが、誰でも、ご自身の体調やその他の事情などで急に休まなければならないことはあります。したがって、日頃から職員全体で支え合いながら仕事を進めていける関係づくりが大切と考えております。

子育てには大変な時期がありますが、子育てに関する様々な制度を活用しながら、是非、子育てと仕事の両立を図って欲しいと思います。同時に日頃から計画的に仕事を進めて、周囲との連携を密にしながら、いざという時の準備しておくことも必要だと思っています。

また、管理職として、職員の協力体制や、お互いに支え合える職場の風土づくりに努めていかなければならないと考えていますし、仕事を続けていく中では、子育てだけでなく、自身の健康、家族の介護など、様々な状況が生じるとお思いますので、お互いに支え合いながら、協働できる環境づくり、関係づくりに努めたいと思います。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

私も子育て期に急に休まなければならないことがあり、「申し訳ない」という気持ちで休暇の連絡をした時に、子どもの健康を気遣う言葉をかけていただいたことが大変有り難かったです。また、周りの先生方にも同様に、温かく支えられました。

職場の理解と協力のおかげで子育て期間を何とか乗り切ることができましたが、日頃からそのような関係性があることが、職員間の協力体制や、学校の様々な取組を進めていく上で重要なことと考えています。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

学校での立場や役割が変わったとしても、子どもたちのために仕事ができることに変わりはないのではないのでしょうか。

管理職の魅力の一つは、教職員とともに、より広い視点で子どもたちの成長や学校づくりに取り組めることだと思います。

[インタビュー実施月：令和5年1月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。